

# やく お薬立ちmemo



暑い季節には、蚊やダニ、ブヨなどによる虫刺されが増えてきます。

虫刺されによる主な症状は「かゆみ」「赤み」「腫れ」ですが、これらは虫の唾液成分などに対するアレルギー反応(炎症反応)によって起こります。



# やく お薬立ちmemo

虫刺されの外用薬に含まれる代表的な成分の一つが抗ヒスタミン薬です。

ヒスタミンはかゆみを引き起こす物質であり、この働きを抑えることでかゆみの症状を軽減します。

軽いかゆみの虫刺されでは、抗ヒスタミン薬を含む外用薬で十分改善することも多くあります。

代表的な市販薬として「ムヒ」があり、かゆみを和らげ、掻きむしりを防ぐために使われる市販薬で、多くの方が安全に使用できます。



# やく お薬立ちmemo

一方、赤みや腫れが強い場合には、ステロイド外用薬が用いられることがあります。


ステロイドは皮膚の炎症を抑える作用があり、虫刺されによる強いかゆみや腫れに対して効果が期待できます。

ステロイド外用薬には作用の強さ(強い方から、ストロングゲスト、ベリーストロング、ストロング、ミディアム、ウィークなど)の違いがあり、症状や使用部位、年齢などを考慮して選択されます。

「ステロイドは強い薬で怖い」と思う方もいるかもしれませんが、実際には症状や部位に合わせて適切な強さのものを、必要な期間だけ使えば、過度に心配する必要はありません。



# やく お薬立ちmemo

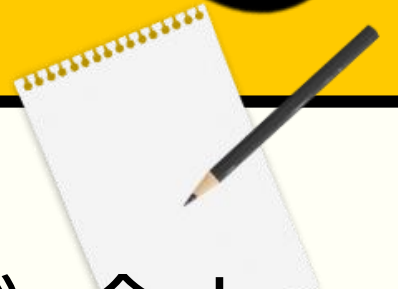


また、市販薬の中には、局所麻酔成分(リドカインなど)や清涼成分(メントール、カンフルなど)を含むものもあり、かゆみの感覚を和らげる補助的な役割を担います。

多くの虫刺されは数日で自然に改善しますが、掻きむしってしまうと細菌感染による二次感染(とびひなど)を起こすことがあります。また、強い腫れが数日続く場合や、水ぶくれを伴う場合には、虫刺され以外の皮膚疾患が関係している可能性もあります。そのような場合には医療機関を受診することが大切です。



# やく お薬立ちmemo



虫刺されの外用薬は身近な薬ですが、含まれる成分や作用にはそれぞれ特徴があります。症状や部位に応じて適切に使い分けることで、より安全で効果的な治療につながります。

薬の選び方や使い方で迷ったときは、どうぞお気軽に薬剤師にご相談ください。

